

平成 29 年 9 月 22 日

平成 29 年度第 3 回 IR 実務担当者連絡会の開催について（第 2 報）

大学評価コンソーシアム

1. 開催の主旨

IR 実務担当者連絡会は、IR や評価など高等教育機関における現状把握・現状分析に携わる実務担当者が集い、事例紹介と議論を通じて評価および IR における実践知の整理と体系化に向けた「経験値」の積み上げを図ることをねらいとした本コンソーシアムの会員による勉強会で、平成 26 年度から現在までに計 11 回開催しております。

大学評価や IR 業務では、学外秘など取り扱いに注意しなければならない情報が多く、「ありのまま」の事例を報告することが難しい状況にあります。しかしながら、大学評価や IR 業務の発展のためには、事例の共有や、事例をもとにした議論は不可欠であることを鑑みて、参加人数を限定した上で、可能な範囲で事例を共有しようと企画したものです。本連絡会は年 4 回の開催を計画しており、今年度 3 回目は、明治大学駿河台キャンパス（東京都千代田区）で開催いたします。

今回の連絡会では、10 件の事例報告を 2 セッション（「実践的セッション」「概念的セッション」）に分けて行い、各セッションにおいて報告に対する質疑応答、総合討論を行います。本連絡会の特長として、質疑応答は質問・感想票を用いて行い、参加者からのすべての質問に回答できるよう、質疑応答の時間を比較的長く設定しています。

参加のお申込みは、いずれかのセッションを選択いただき、お申込みいただいたセッションに出席いただく方式となっております

なお、本連絡会で報告された事例は、参加者だけで共有するには「勿体ない」レベルのものが多くあります。そこで、各報告者には、本連絡会での議論の結果を踏まえ、可能な範囲で情報誌「大学評価と IR」へ投稿していただき、参加いただけなかった方を含め、我が国の評価や IR の担当者や関係者と情報を共有していけるようお願いいたします。

2. 日時・会場

平成 29 年 10 月 27 日（金）13：30－16：30

※最大 30 分程度の延長があります。

※会場は 17 時 30 分まで開放します。報告者の方には可能な限り残ってもらえるようお願いいたしますので、他のセッションの講演者へのご質問等に活用してください。

明治大学 駿河台キャンパス 紫紺館 3 階 S 3 会議室・S 4 会議室

東京都千代田区神田小川町 3 丁目 2 2-1 4

https://www.meiji.ac.jp/koyuka/shikonkan/copy_of_shikon.html

3. 対象者

参加希望者： IR（現状把握・現状分析）に興味があり大学評価や学務、経営企画等に関連する調査などに従事したことがある教職員や IR に関する実践事例などに興味がある方。

- ・平成 29 年 9 月 26 日（火）13 時から申し込みを開始します。
- ・今回は 2 つのセッションに分かれますので参加したいセッションを選択してお申込みください。いずれか 1 つのセッションのみ参加いただけます（お申し込み時に決めていただきます。なお、途中でのセッション間の移動はできません。）
- ・申し込みは大学評価コンソーシアム Web サイトからお願いします。
- ・資料については、前日（10 月 26 日・木）10 時までに web サイトから提供します（URL はその際にお知らせします）。通信のできる情報端末をお持ちの方はそちらから、お持ちでない方や紙資料で参加したい方は印刷の上、ご持参ください。
- ・本コンソーシアム会員以外の方は、同 Web サイトから新規入会手続きをお願いします。

4. 定員

各セッション 30 名（合計 60 名）

5. 参加費

徴収しません。

6. 注意

- ・「ここだけの話」的な雰囲気確保のため、**録音、撮影はご遠慮ください。**
- ・運営スタッフが録音、撮影を行いますが、録音は報告者への提供用です。撮影した画像は報告用 web ページの素材として小さくトリミングして使います。
- ・原則として要点を記したレジュメもしくはスライド資料を配布します（前日午前中までに PDF ファイルを web サイトに提示するか、当日紙での配布）。
- ・途中でのセッション間の移動はご遠慮ください。

7. タイムテーブル

別紙 1（実践的セッション）、別紙 2（概念的セッション）をご覧ください。

8. スタッフ

大野賢一（鳥取大）、小湊卓夫（九州大）、佐藤仁（福岡大）、畠田敏行（茨城大）、関隆宏（新潟大）、土橋慶章（神戸大）、藤井都百（九州大）、藤原将人（立命館大）、山本幸一（明治大）ほか

9. 参加申し込み方法

参加希望は大学評価コンソーシアムの web サイトからお申し込みください。申込み開始は、平成 29 年 9 月 26 日（火）13 時からです。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=member>

10. 問い合わせ先

茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門 畷田 敏行

toshiyuki.shimada.ir@vc.ibaraki.ac.jp

電話：029-228-8252 (AP 事業室)

明治大学 教学企画部 評価情報事務室 山本 幸一

ma94004@mics.meiji.ac.jp

電話：03-3296-4228

11. 次回以降の予定 (含む関連イベント)

平成30年3月2日(金) IR 実務担当者連絡会ほか (於：九州工業大学)

12. 謝辞等

○ IR 実務担当者連絡会の開催には、以下の資金も利用しています。

・平成27年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 基盤研究 (B)

「大学の評価・IR 機能の高度化のための実践知の収集・分析とその活用に関する研究」 (課題番号：15H03469、研究代表者：畷田敏行)



別紙 1 :

A : 「実践的な内容のセッション」タイムテーブル

13 : 30 - 13 : 40 趣旨説明

13 : 40 - 13 : 55 「PROG のデータをどのように活用していくか」

○白石 哲也 (清泉女子大学 情報環境センター (IR)) 【報告 : 15 分】

概要 : 近年、河合塾が開発した PROG を導入する大学は増加しており、その背景のひとつに DP の達成度を測るための活用がある。しかし、学生の貴重な時間を使用して取得したデータであり、本来であれば、学生にも何らかの還元がなされるべきであろう。本発表では、学生支援の観点から PROG の活用についての考察を行いたい。

13 : 56 - 14 : 06 「学術文献データを活用した IR : データベース, ID 編」

○山本 鈺 (九州工業大学 インスティテューショナル・リサーチ室) 【報告 : 10 分】

概要 : 九州工業大学では、学術文献データを活用した IR (通称 : 研究 IR) を実施するにあたり、研究者単位で名寄せを行っている。

しかし、これを実施する上では、学術文献データベース、著者 ID といった製品やサービスの特徴を考慮し、所属大学にとって最善だと考えられる製品を組み合わせる必要がある。

そこで、本学においてどのような組み合わせを選択しているか、について選択の過程を含めて紹介する。

14 : 07 - 14 : 22 「教務データによるカリキュラム評価の試行的検討」

○山本 幸一 (明治大学 評価情報事務室) 【報告 : 15 分】

概要 : 第 3 期大学評価では学習成果というアウトカムデータの活用が強調されているが、本発表では、より身近で負担なく収集でき、アウトプットやプロセスを直接的に示す教務データから、カリキュラムの妥当性、適切性を評価することが可能であるのか、サンプルデータによる試行的レポートをもとに、その有効性や可能性について議論を行いたい。

14 : 23 - 14 : 38 「学生による学生調査の特徴としての当事者性、正課教育の応用可能性」

○渡辺 健太郎 (大阪大学大学院 人間科学研究科)

○上島 洋佑 (金沢大学 国際基幹教育院) 【報告 : 12 分】

概要 : 本報告では、発表者 (渡辺) が金沢大学の学士課程在籍時に実施した「多様化する学生のニーズについての調査」について、学生 (渡辺) と教員 (上島) が共同で分析・考察した結果を報告する。

ここで明らかとなった点は「調査主体に学生が含まれることは、データの解釈を深化させること」、「学生による学生調査は、正課教育の応用の場としての可能性を有すること」である。

当該報告を踏まえて、学生調査等 IR 活動に学生が関与することの可能性や今後の展望について議論を行いたい。

14：39－14：49 「各大学で共通に見られる現象の括りだしから「共通知」を整理する」

○大野 賢一（鳥取大学 学長室 IR セクション）

畠田 敏行（茨城大学 全学教育機構）【報告：10分】

概要：近年、各大学における IR 業務の発展により、複数の大学で共通に見られる事項が浮かび上がってきた。これらの共通事象を整理し、原因をある程度明らかにすることができれば、数量的データから見た我が国の大学の共通性が判明するだけでなく、IR オフィス立ち上げ期における「まず調査すべきこと」が明確になるだけでなく、我が国の大学をモニタリングする上での共通指標の設定にもつながる。今回は、手始めに共通現象と思われることを複数紹介し、その共通性について出席者と意見を交換したい。

14：50－15：05 休憩および質問・感想票記入

15：05－16：25 報告&総合討論

・質問・感想票にもとづく質疑応答を行います。（原則的に参加者から出された質問すべてに回答します。）それに引き続いて総合討論を行います。

16：25－16：30 アンケート記入

（なお、17時30分まで会場を利用することができますので、情報交換など相互に懇親を深めてください）

別紙 2 :

B : 「概念的な内容のセッション」タイムテーブル

13 : 30－13 : 40 趣旨説明

13 : 40－13 : 55 「JREC-IN Portal 求人公募情報に見る大学評価・IR 担当者人材像」*

○藤井 都百 (九州大学 インスティテューショナル・リサーチ室) 【報告 : 15 分】

概要 : 日本の大学を中心とした研究人材の公募情報を取り扱う JREC-IN Portal に掲載された求人公募情報から、大学評価や IR に関する公募に着目して、これらを担う人材に求められる要件について整理し、大学評価・IR 人材育成について検討する材料としたい。

13 : 56－14 : 11 「「学問分野」としての IR」*

○朴 炫貞 (成城大学 教育イノベーションセンター IR 推進室) 【報告 : 15 分】

概要 : IR は主に高等教育政策の展開で注目され、学問的にも高等教育研究の一部として取り上げることが多いが、「学問分野」としての IR の知識の制度化に寄与する研究者のバックグラウンドは、決して一様ではない。本報告では、「researchmap」の研究キーワードの一つに IR を登録している研究者たちのデータを使用し、研究キーワード、所属学会、学位取得分野、IR に関する論文の内容等を実証することにより、知識の制度化における特徴を考察する。

*藤井報告と朴報告の内容が若干近接しているため、内容の調整を行う場合があります。

14 : 12－14 : 24 「人・組織・時間の 3 視点に基づく組織特徴の分析」

○丸山 研二 (久留米工業大学 IR 推進センター) 【報告 : 12 分】

概要 : 大学評価や IR の業務や研究では数値を使った定量的な分析だけではなく、組織の文化や教職員の志向といった定性的な分析が必要な場合がある。本発表では、そのような定性分析のひとつとして、大学教員をインタビューし、経営情報分野で実績のある、人・組織・時間の 3 視点に基づいた組織特徴分析をおこなった結果を述べる。このような組織分析は、大学の現状を把握するだけではなく、IR データを有効に活用し大学の将来像を明確にする際にも有用である。

14 : 25－14 : 40 「大学評価担当者がみる日本の大学評価の展開—アメリカの適格認定を参考に—」

○藤原 将人 (立命館大学 教学部学事課) 【報告 : 15 分】

概要 : 大学評価や IR に直接従事する担当者にとって、日本の大学評価の意義や特徴を知ることは重要である。本報告では、日本の大学評価の動向をアメリカの適格認定 (ア kredィテーション) の動向も参照しながら歴史的にたどり、日本の大学評価—とくに認証評価制度の改革課題を整理、検討する。

14：41－14：56 「内部質保証システムを TQM から考える」

○ 嶋田 敏行（茨城大学 全学教育機構）【報告：15分】

概要：昨今、各大学で導入が求められている内部質保証システムについて、大学改革支援・学位授与機構のガイドライン、茨城大学での取り組みだけでなく、セイモア著（舘・森訳）「大学個性化の戦略－高等教育の TQM－」などを参考に TQM（総合品質経営）の観点から「どういうものなのか」「何をすればよいのか」を考えてみたい。

14：57－15：10 休憩および質問・感想票記入

15：10－16：25 報告&総合討論

・質問・感想票にもとづく質疑応答を行います。（原則的に参加者から出された質問すべてに回答します。）それに引き続いて総合討論を行います。

16：25－16：30 アンケート記入

（なお、17時30分まで会場を利用することができますので、情報交換など相互に懇親を深めてください）